

校 区 の 概 要

1. 沿 革

上代弘仁14年加賀国となり、国守紀末成の支配下に属したが、その後、富樫忠頼の領地となり、以来500年その支配下にあった。ところが、富樫氏が亡んで本願寺の領地となり、天正8年織田信長が一向宗の乱に乗じて佐久間盛政をして本村に兵を進め、鳥越城主の鈴木出羽守を滅ぼし、家臣の吉原次郎兵衛を城主として守護された。

その後、前田利家が加賀の領主となりその支配下に属した。明治4年廃藩置県と共に金沢県となり、明治5年2月石川県と改称された。

明治9年郡区改革により石川県第12区に編成され、明治11年郡区町村制法実施に際し28か村をもって戸長役場がおかれた。明治22年町村制実施により出合以北8か村をして河野村、別宮以南13か村を以て別宮村、釜清水以南7か村を以て吉原村がおかれ、明治40年8月この3か村が合併して鳥越村と改称された。

昭和24年6月1日、石川県議会の議決によって郡界変更となり、石川郡に編入される。また、平成17年1月には閉村式を行い、98年の鳥越村の歴史に幕を下ろした。そして、平成17年2月1日より1市2町5村が合併し新しく白山市となった。平成25年4月1日から河内中学校と統合し、鳥越・河内地区が校区となる。

2. 現 況

かつては農村地区であり、米、煙草等の農産物、杉の植林、製炭等で生活を支えていたが、時代の進展によりスキー場開設、道路整備による流通の変化等、急激な変貌をみた。

現在は専業農家・第1種兼業が若干、そして第2種兼業とサラリーマンや自営業が大半となっている。産業構造や生活基盤の変化とともに、生活様式の近代化が見られるようになったが、過疎化や少子高齢化が進行している。

こうした中にも人情豊かな地域性は受け継がれ、農地の基盤整備による農業の近代化や生活環境の基盤づくり、新規産業の開発促進、自然と歴史を生かした行政施策が積極的に推し進められている。また、学校教育や社会教育、文化活動への関心も高い。

平成17年2月1日の白山市誕生により、村役場は白山市役所地区支所、村教育委員会は白山市教育委員会地区分室として、白山市地区公民館と共に地域の行政、教育の中心としての役割を継承することとなった。そして、それに伴い、鳥越村立鳥越中学校は白山市立鳥越中学校と呼称が変わり新しくスタートした。また、平成23年4月1日から、山麓の教育課地区分室は白山ろく教育課として統合になった。平成25年4月1日より、河内中学校と鳥越中学校が統合し、新生鳥越中学校として出発した。平成28年4月1日より、白山麓教育課は白山市生涯学習課に統合された。